

# 春

# 迎



登米市長  
布 施 孝 尚  
たかひさ 孝尚

## 何事にも挑戦する気持ちで 一步一步前進

明けましておめでとうございます。皆さまには、輝かしい新春をお迎えのことと心からお喜び申し上げます。日頃より、市政運営におきまして各般にわたる格別のご支援、ご協力をいただき厚く御礼申し上げます。

昨年は、東北楽天ゴールデンイーグルスが日本シリーズを制覇し悲願の日本一に輝き、東日本大震災からの復興に向けて進んでいる私たちに、大きな勇気と感動を与えてくれたことは、記憶に新しいところです。本市の昨年を振り返りますと、4月から6月にかけて「仙台・宮城デステイネーション・キャンペーン」が開催され、市内各所でさまざまな取り組みが行われ、多くの皆さまにお越しいただき本市の魅力に触れていただきました。7月には市民病院に救急外来棟と地域医療連携センターを開所、救急患者の受け入れや医療・介護などに関する相談業務をスタートさせ、救急機能の向上と医療や介護・福祉の連携拠点施設として整備いたしました。

さて、政府は、昨年6月にデフレ脱却と経済再生に向け「経済財政運営と改革の基本方針」を閣議決定し取り組みを進めているものの、いまだ先行きが不透明な状況であります。また、TPPの交渉では、聖域として関税撤廃から例外扱いを求めている米や麦など重要5項目の協議が難航していることや、米の生産調整、いわゆる減反政

策を廃止する方針が決定されるなど多くの課題を抱えております。

このような中で、本市の持続的な発展を目指し、農産物などの生産と加工・販売を一体的に行う6次産業化について推進してまいりました。農業者・事業者の農業所得の増大や地域農業の活性化が図られるよう、今後とも支援してまいります。また、これまで自動車関連企業などに進出していたいておりますが、新たな工業団地整備につぎまして、平成27年度中の完成を目指し取り組んでおり、企業誘致や雇用の創出を積極的に行ってまいります。

その平成27年度は、登米市誕生10周年を迎える節目の年であり、第一次登米市総合計画の目標年次でもあります。このことから、将来にわたり本市のさらなる発展に向け次期総合計画の策定を進め、将来像である「夢・大地 みんなが愛する水の里」の実現に取り組んでまいりますので市民皆さまのご支援とご協力をお願い申し上げます。物事を進める時、一歩踏み出すことで新たな動きが加わり、活力が生まれます。私が市政の舵取り役を担わせていただいておりますので10年目を迎えますが、これからも何事にも挑戦する気持ちで取り組み、一步一步前進してまいります。

結びに、本年が皆さまにとって健やかで実り多い年となりますよう心よりご祈念申し上げます。年頭のあいさつといたします。

年頭にあたり、議会を代表し一言ごあいさつを申し上げます。

市民の皆さまにおかれましては、輝かしい新年をお迎えのことと、心からお慶び申し上げます。

さて、一昨年の12月26日に第二次安倍内閣が発足し、1年余りが経過しました。

その間、「アベノミクス」といわれるデフレ脱却のための経済政策が発表され、各産業の発展計画をはじめ、農業・農村所得の倍増計画など、歯切れのいい政策がたくさん盛り込まれています。

この政策については、今後の推移を見守るとともに、少しでも登米市民の所得が向上するよう、その成果に期待をするものであります。

また、3・11の東日本大震災発生から2年10カ月が経過しましたが、インフラの復旧には一定程度の目途がついたとはいえ、原発事故による汚染稲わらの最終処分や、風評被害を含めた賠償の問題など、まだまだ課題が残っております。

我々議会としても、その課題解決に向け、県に向いて要望活動を行い、東京電力や環境省にも直接意見を述べてまいりました。さらに、各議長会においても幾度となく要請行動を実施しております。

また、農業を基幹産業とする本市にとりまして、TPPの問題も深刻であります。減反政策の廃止や戸別所得補償の見直しな

ど、政権が変わるたびに政策が変わり、農家はそのたびに経営方針の転換を迫られています。

そんな中にも、明るいニュースもありました。あの震災の後、東北楽天ゴールデンイーグルスの嶋基宏選手が、「東北の底力をみせましょう」とメッセージを発信。その2年後、チームは底力を発揮し、日本一となりました。このことは、東北の人々に大きな自信を与えてくれました。また、2020年には東京オリンピックが開催されることとなりました。あのプレゼンテーションを拝見し、大きな感銘を受けました。本市においては、来年（平成27年）4月に開校する「(仮称)登米総合産業高校」の環境整備が本格化してまいります。福祉系学科の新設を含め、県内初の総合産業高校が誕生し、地域に貢献できる志を持った産業人が育成されることに大きな期待を抱いております。

今、新年を迎え改めて思うことは、我々議会として何をすべきか。車の両輪のごとく市と力を合わせ、この混沌とした社会を乗り切らなければならないという切実な思いであります。登米市民が安心して暮らせるよう、議会として、行政として、間違いのない道筋を示していく必要があります。

結びに、市民皆さまのご健勝を心からご祈念申し上げます。年頭のあいさつといたします。



登米市議会議長  
田 口 久 義  
ひさよし 久義

## 市民が安心して暮らせるよう 間違いのない道筋を